

ゲノム・エピゲノム解析と免疫組織染色による難治性悪性リンパ腫の層別化と新規治療法の開発

1. 研究の対象

2008年4月1日以降に当院で悪性リンパ腫またはリンパ増殖性疾患の診断のためリンパ節生検を受けられた方

2. 研究目的・方法

悪性リンパ腫は免疫を司る血液細胞の一種である成熟リンパ細胞の癌です。全身のリンパ節や臓器に発生すると、様々な臓器障害をきたします。発症の原因は未だ不明ですが、リンパ細胞の癌遺伝子そのものや、遺伝子情報の集合体であるゲノムへの化学修飾(エピゲノム)に何らかの原因で変異が生じ、さらにはこれらの変異により作られたタンパク質の発現量が変化することにより癌が発症することがわかってきています。悪性リンパ腫は治療の開発が進んでおり、根治が得られる症例も増えてきています。しかし、一部の悪性リンパ腫は難治性のものもあり、その難治化の原因は不明です。この研究では、通常治療で根治の得られた悪性リンパ腫と難治性悪性リンパ腫を比較することにより、難治性悪性リンパ腫の成り立ちを遺伝子やエピゲノム、タンパク質の発現量の面から明らかにしようとするものです。両者のリンパ節の細胞の遺伝子やエピゲノム、タンパク質の発現量の違いを調べ、悪性リンパ腫の難治化を起こすような変化を同定することを目指します。この研究により、難治性悪性リンパ腫がなぜ発症するのかを明らかにし、その治療法の開発に発展していくことが期待されます。

研究期間：2018年承認後から2022年3月31日

なお、将来研究内容が追加・変更になる可能性があります。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

研究に用いる試料：リンパ節組織

研究に用いる情報：生年月、病歴、治療歴

4. 外部への試料・情報の提供

試料は外部へと提供されることはなく、すべて当院血液内科で研究に用いられます。

またこの研究の成果は、医学の発展に役立つ新しい研究成果となることがあります。その場合には、得られた情報を、誰の協力を得て研究を行ったかわからないようにした上で、学会発表や学術誌、データベース上などで公に発表することがあります。また、この研究の結果として特許権などの知的財産権が生じることがありますが、あなたにはこれらについての権利はありません。

5. 研究組織

千葉大学医学部附属病院 血液内科 診療教授 堺田恵美子

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者・代表者：

千葉大学医学部附属病院 血液内科 診療教授 堺田 恵美子

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

電話：043-222-7171 内線 5259（血液内科）